



# 全日本学生ロードレースカップシリーズ第7戦 浮城のまち行田ラウンド 第15回 東京六大学対抗ロード(クリテリウム)大会

2024年12月15日(日) 埼玉県行田市・行田総合公園周辺 周回コース (1周 2km)

主催:日本学生自転車競技連盟/東京六大学対抗自転車競技大会実行委員会 運営協力:一社)埼玉県自転車競技連盟

後援:行田市/行田市教育委員会/行田市体育協会/行田商工会議所/埼玉県議会/行田市議会/公益財団法人行田市・産業・文化スポーツいきいき財団

## コミュニケ(競技系)

Communique No.4-1

チーフ・コミッサー 森川和之

ver 20241213

1. 各カテゴリーごとの周回数(距離)および組分け  
大会要項を参照のこと。

2. ゼッケン・フレームプレートの取付け

(ア) ゼッケンの装着は一般規則に準じる。(右図参照)

(イ) フレームプレートは、フレーム前部中央に付けることを原則とし両側から読めるように取り付ける事。また、どうしてもフレーム前部に取り付け不可能な場合、シート部分への取付けを認めるが、脚で隠れない様に突き出した位置に固定のこと。



3. 女子カテゴリーについて

大会要項に記載の通り、男子クラス3Aと混走とする。

女子選手については男子先頭とのタイム差をもとにした失格・除外は行わない

周回遅れになった場合は男子先頭ゴール後のフィニッシュライン通過順をもって順位をつける

4. ニュートラリゼーションについて

移動審判員により確認された認められる事故の場合、最後の3周を除き1週のニュートラリゼーションが与えられる。

5. 飲食料の補給について

大会要項に記載の通り、飲食料の補給は認めない。

6. 器材交換(ピット)について

(ア) 競技中の器材交換は、スタートフィニッシュ地点付近に指定されたピットエリア(詳細は当日指示)でのみ、地上にいるチームスタッフからの器材提供・修理支援を認める。

(イ) 落車の原因となるので、ピット区間以外での器材修理および交換は認められない。

7. レースの失格・除外について

(ア) 原則として、毎周回S/F地点で先頭(展開によっては主集団)より20秒遅れ、もしくは集団から離れて復帰できないとコミッサーが判断した選手は、失格・除外とします。

(イ) 周回遅れで失格となった選手は、自らゼッケンを外して(フレーム・プレートは外さない)、競技の妨げにならない様にコース外へ出ること。(特に、コースの逆走は絶対にしないこと)

(ウ) 自主的に競技を途中棄権した選手は、フィニッシュエリアの審判に必ず棄権の旨を伝えること。通告のない場合はペナルティーとなる場合があるので注意すること。

8. その他

(ア) 映像ユニット等を自転車に付加して走行する場合、JCF競技規則第16条3.(2)d)④規定を順守のこと。なお、本大会レース中に撮影された映像の所有権は、原則、日本学生自転車競技連盟に帰属とします。

(イ) RCS ポイント総合順位リーダーは、RSCにおいてはリーダーズジャージを着用して、スタートしなければならない。



# 全日本学生ロードレースカップシリーズ第7戦 浮城のまち行田ラウンド 第15回 東京六大学対抗ロード(クリテリウム)大会

2024年12月15日(日) 埼玉県行田市・行田総合公園周辺 周回コース (1周 2km)

主催: 日本学生自転車競技連盟/東京六大学対抗自転車競技大会実行委員会 運営協力: (一社)埼玉県自転車競技連盟

後援: 行田市/行田市教育委員会/行田市体育協会/行田商工会議所/埼玉県議会/行田市議会/公益財団法人行田市・産業・文化スポーツいきいき財団

Communique No.4-2

## 9. コース上の注意箇所について

- ・コースは直角コーナーが1周6箇所あり、コーナーには子砂利もあるのでスリップには十分注意する事。
- ・S/F後の右折、最終S/F地点に出る右折では過去に落車が起きているので特に注意する事。
- ・コース上の道路は一部凹凸部分もある為、集中して走行し注意する事。
- ・コース試走の時間を設けているので、各チームとも試走しコース把握に努める事。
- ・天候によってはかなりの強風が吹く場所であり、あおられたり、急に詰まったり、左右に振られることが起きるので注意する事。
- ・コースには警備・立哨を配置しているが小さな脇道が多く、一般人、自転車、犬などが入ってくることもあり得るので、必ず前方は注意。
- ・集団内で不用意に後ろを振り向き、ふらついて落車につながる事の無いよう十分注意。
- ・ラスト直線でのゴール勝負で自身の走行ラインの不保持、押圧などはペナルティ対象となるので注意。

以上は注意の一部であり、一般道のクリテリウムコースの為、全コースに渡り周囲に注意し自身の走行ラインを守り違反行為の無いよう注意して走行の事。

以上